

令和4年3月15日

専修学校遠隔教育導入モデル構築プロジェクト

調理製菓分野における、教育効果の高い遠隔及びeラーニング教育実践モデル開発事業

令和4年度開発プログラムの指針(案)

本年度は基本調査とスマートグラスを活用した実習の実証実験を行った。調査、実証実験によって得た知見をまとめ、令和4年度開発プログラムの指針を以下の通りまとめた。

①スマートグラスと定点カメラを併用した遠隔教育教材の研究開発

定点カメラ等とスマートグラスを併用し、スマートグラスの特徴を最大限生かせる遠隔教育用実習教材の研究開発を行う。

②学生からのニーズが高いオンデマンド教材の研究開発

知識習得度の客観的評価ができる「製菓衛生師試験」内容を含む理論分野のオンデマンド教材の研究開発を行う。

③店舗・ホテルなど、現場からのライブ配信を利用したジョブシャドウイングの実証実験

店舗・ホテルなどの現場からのライブ配信を授業に取り入れ、ライブ感・臨場感のある現場のジョブシャドウイングを行う。

ジョブシャドウイング

アメリカの定番の職業教育。児童・生徒・学生が社員に影のように張り付いて仕事を観察して学ぶ。インターンシップと違い、観察するだけで働かない。

児童・生徒・学生のメリットとしては「企業ではなく仕事を見る。」「働く目的や意義を発見する。」。企業側のメリットとしては、「受入準備が必要ない。」「自分の仕事の意味に気づき仕事の振り返りができる。』といわれている。日本では社員研修の一貫としてシャドウイングを取り入れるところも出てきている。